



ハナサカールNは所構わず花を咲かせる。

窓辺の鉢植えに浴びせればタンポポが咲くし、冬の桜も満開になる。

三丁目の豪邸には向日葵が咲くし、田中の家に撒いてみたところ貧乏草が咲いた。杉林に撒いた奴がいて全国の花粉症患者が涙を流し、模倣犯が松林に現れたので鼻水も流した。

ハナサカールNはハナサカールNによって咲いた花から精製される。ご家庭のキッチンでも簡単に抽出できるために、最初の一瓶が流出してより後、全国的に濫造され、ばらまかれた。

あるときハナサカール愛好会の会長が死んだ。ベッドに生えた鈴蘭をハーブティーにして飲んでいたのでという。事故か自殺かは判然としない。

彼の葬式では仲間の会員達が献花の代わりにハナサカールNを棺にぶちまけた。死体からは彼岸花が生え、坊さんがぶち切れた。

「仏様で遊ぶんじゃない！」

いきり立つ僧に会員達は、

「うるせーハゲ！」

ハナサカールNを浴びせた。

坊さんの頭からはサボテンが生えてきた。天辺には小さなピンク色の花が咲いている。

突如として半目になった僧はなにやらぶつぶつと独り言を始める。

「世界は輝きに満ちている！ ああ、因果の糸が目に見えるようだ、全天、晴天、高速回転！ なんとという恍惚！ ああ、あなた方にもこの幸福を与えなければ」

彼は愛と勇気と希望について説きながら、懐からハナサカールNのアンブルを取り出して、参列客に浴びせ始めた。

あの坊主、頭の中まで花畑になりやがった、会員達が気付く頃には既に幾人かが犠牲になり、犠牲になったものたちは次の犠牲者にハナサカールを浴びせ始めていた。はげ頭、ザンギリ頭、長髪にポプカット、ちょんまげ、様々な頭から様々な花が咲いた。

彼らのことを便宜上、花人間と呼ぶことにする。

花人間はねずみ算式に増えた。

止めようとする動きがなかったでもない。

他人に無断で薬品を浴びせかけるのだからと、傷害罪として

立件されそうになったが、被害にあったものは頭の中が花畑になり、多幸感で満たされるために被害意識を持っていない。それどころか浴びせられたことに感謝すらしている始末で、被害届が出ない。現行犯逮捕しようとした警官は逆にハナサカールを浴びせられて花人間になってしまった。

立法府による花人間規制の流れもあったが、文言を「花人間規制」にするのか「ハナサカール規制」にするのかで採めている間に議員達が、ロビー活動とは名ばかりのフラワーテロによって花人間にされてしまったために、ご破算となった。

いっそ精神病院に入れてしまえ、という動きもあったが、毎日のように愛と勇気と希望の素晴らしさを説く花人間の相手をする内に、ノイローゼになった医師達が花人間になってしまい、花人間であることは病気ではないという診断基準を医学界に作ってしまった。

かくして、某宗教団体も真つ青な花人間普及活動が幕を開ける。穏やかな休日の後、ソファで微睡むあなたに玄関ベルが聞こえる。

「はい」
扉を開けたところ、頭にべんべん草の生えたおばさん二人組が、
「花人間連合のものですよ」

言うなりアンブルを取り出して投げつけてくる。
とっさに身を躲したところ、お気に入りの玄関マットに花が

咲く。

おばさん二人組は懐から大量のアンブルを取り出す。

あなたは踵を返し、窓から逃げ出す。

街中にも安住の地はない。表通りを歩いているのは最早花人間ばかりであり、頭に花のない人間を見つけると、
「まだ花人間になる幸福を知らないなんて、なんて可哀想なんだ」

親切心からハナサカールNを投げつけてくる。
あなたは必死に走る。背後から追いかけてくる花人間の群れ

は、走るほどに数を増し、投げつけられたアンブルの割れる音が所構わず響き、一行の通った後は色とりどりの花畑になる。
色彩豊かな街並みを逃げ回る内、息は切れ、足はもつれ、視

界はだんだんと霞んでくる。
そんなあなたの目の前に、犬が二匹、天啓のようにして現れた。

頭にはシロツメクサが生えている、野良花犬だ。
二匹はあなたの両足に向けて体当たりをし、もんどり打って

あなたは転ぶ。
あなたを追いかけていた花人間達は止まろうとするが、後続

の集団がすぐには止まらないために、先頭を走っていたものたちは押されて転び、その上に花人間が転び、雪崩打つように折り重なり、あなたの目の前でようやく止まる。
頭に水芭蕉の生えた少女が、あなたの前に立つと、

「さあ、あなたにもこの祝福を」

ハナサカールンを高く掲げて振り下ろした。

あなたの頭からはブーゲンビリアが生えた。

途端に、世界は愛と勇気と希望に満ちていると言う事があなたにも理解されてきて、全身が神聖な光に包まれているような多幸感に満たされた。

目の前には、あなたにこの幸福を教えるべく、追いかけてきてくれた人達が大勢いる。彼らは一人二人と立ち上がってはあなたに向かって微笑む。

ああ、世界は最初から目に見えない花に満ちていたのだ。ハナサカールンはそれを触れられる形で顕現させるだけなのだ。

ようやくあなたは理解する。

素晴らしい、

素晴らしい！

世界は花に満ちている！